

# HACCP システムの 考え方

Kazuo Hisa  
日佐 和夫

新連載



大阪府立大学  
食品安全科学研究センター／微生物制御研究センター  
客員教授

1946年生まれ、大阪市出身。69年農林省水産大学校製造学科（現(国)水産研究・教育機構水産大学校）卒業、同増殖学科研究科中退、大阪府立大学農学部獣医学科研究生。その後、スーパーマーケット品質管理、衛生管理会社などを経て、東京海洋大学大学院食品流通安全管理専攻教授、2012年退職。現在、数社の顧問を務める。（社）全国スーパーマーケット協会「食品安全技術専門会議」委員長。

HACCP 制度化への対応

第 1 回

## 食品微生物および その管理とともに約 50 年

筆者の卒業論文は海洋細菌であった。しかし、魚病細菌に興味を持ち、1969年に水産大学校の増殖学科研究科に進学、大阪府大獣医学科の研究生に転出して研究を行った。その直後、故阪口玄二先生が教授として招請され、「ブドウ球菌エンテロトキシン(Ent)」「セレウス菌の毒素様物質」「ウエルシュ菌 Ent」などの研究指導を受けた。このとき、当時の大阪府立公衆衛生研究所細菌課長の故加藤亮弔先生から、研究とは別に「食品微生物事故・苦情」に関する現場的対応方法の薫陶を受け、研究や検査だけでなく「現場で改善する」ことの重要性を徹底的に教えられた。

企業（小売り・衛生管理など）では、微生物検査と飲食店点検（1万店舗以上）、工場監査（3000以上）がその中心的業務であった。苦情事例のデータ化、食品工場の改善や品質管理に興味を持ち、苦情調査報告書の論文化を模索した（後に博士論文の一部に記載）。

HACCPシステムに関しては、当時の国立予防衛生研究所の故河端俊治先生との出会いから日本食品保全研究会に参加しHACCPの教えを受け、講演や書籍執筆の指導を受けた。また、米国食品加工業協会

研究所（FPI）のダン・バナード博士の許可を頂き、日本初のHACCP教育テキスト（FPIの日本版翻訳）を企画・出版（イカリ消毒(株)）した。

博士論文については、イカリ消毒のご配慮により99年、愛媛大学大学院連合農学研究科で「食品産業におけるHACCPシステムの構築に関する応用的研究」（指導教授：芳澤卓實香川大学名誉教授）で博士号を授与された。日本で初めてのHACCPに関する

学位論文であった。学位授与式では芳澤先生から「学位を授与したのは良いのか悪いのか分からない」と言われたことを痛烈に記憶している。その後、先生から「学位授与は間違いではなかった」と言われたときは、2回授与された気持ちになった。その後、藤井建夫東京

水産（海洋）大学名誉教授の推薦で東京水産大学客員教授に、さらに、社会人育成のために東京海洋大学大学院教授に招請された。

このシリーズでは、HACCP制度が創設されたことに伴い、食品安全の問題点を「HACCPシステム論」として述べ、また品質・情報の視点を加え、今までの現場経験に基づいた意見を述べることにより、ご批判を頂きたいと思っている。

